

官製談合事件 「潔白の証明」にあらす

平成21年7月に起きた甲良町官製談合事件の再捜査をすすめていた大津地検は、6月28日ふたたび不起訴処分としたことを発表。これに対し、告発人の代理人を務めた玉木弁護士から感情的論評が寄せられましたので紹介します。

甲良町官製談合事件 残念ながら再度不起訴

2013年6月29日
弁護士 玉木昌美

平成24年7月18日甲良町発注工事の指名競争入札をめぐる官製談合事件で、大津検察審査会は、競争入札妨害などで告発した前町長ら4人について、「不起訴（嫌疑不十分）」とした大津地検の処分を「不起訴不当」と議決した。そして、再度大津地検において今度は立石次席検事が担当して捜査のやり直しが行われたが、平成25年6月28日、またしても「不起訴（嫌疑不十分）」とした。

次席の説明によれば、「非公表の最低制限価格と全くの同額で落札したことはおかしいことは勿論であるが、漏らしたという行為の具体的特定が困難であり、有罪判決を獲得できるだけの証拠が固められなかった。」というのであった。数字を漏らしたと考えられる人物は別の刑事事件で、全く同額で落札できることは通常ありえないことは認め、同額で落札した町会議員は、その理由についてまでも説明できないままである。真犯人であったとすれば、否認を続けて言い逃れ、うまく逃げおかせたことになる。

検察官は立場上、有罪を証拠によって立証しなければならぬ。真犯人であつて

官製談合疑惑の事実関係

(100条調査委員会報告書)

㈱浜野工務店が非公開の最低制限価格にどんぴしゃの金額で落札した。入札前の「談合情報」通り㈱浜野工務店が落札した。従来の指名基準では、㈱浜野工務店が入札に参加できないために、わざわざ基準を変更した。㈱浜野工務店が受注すれば建設業法違反になることが予測できたにもかかわらず入札参加させた。最低制限価格の教示が議会事務局を舞台に行われていたことも証言された。「(最低制限価格は)町長と私(野瀬元主監)と議長と副議長しか、知らんことでした」との会話を録音したCD(ICレコーダーからコピー)も存在している。

も、その立証に失敗すれば、無罪となる。「疑わしきは被告人の利益に」との大原則があるからである。多くの冤罪事件においてはその大原則が踏みにじられた判決がなされているが、今回は皮肉な形でその原則が尊重されることとなった。初期の段階で踏み込んだまともな捜査がなされていたら、起訴に至っていた可能性は高いだけに残念な結果である。

しかし、「不起訴」という結論になったとはいふものの、この官製談合事件をここまで追いつめた甲良町議会と住民のパワーはすばらしかったといえる。刑事責任を逃れたとしても、政治的・道義的責任のある疑惑の人物が、不起訴をもって「潔白が証明された。」などと主張するとすれば、刑事裁判についての無知をさらけ出す恥ずかしいかぎりのことである。

「町政・税金を私物」 疑い消せず

党甲良町議員団長 西澤伸明

大津地検の「不起訴」発表に先立ち、6月26日、玉木弁護士も同行して建部議長、木村議員とともに、立石次席検事の捜査状況の説明を受けました(次席検事が人数制限してきたために丸山光雄議員、藤堂議員は参加できず)。

次席検事は「限りなく黒に近いのだけれども、黒に塗りつぶせなかった」と不起訴の理由を「嫌疑不十分」と説明し、相手が無罪主張した場合、決定的な証拠が固められないからだと弁解しました。

そして、「みなさんを慰めるようだが」と甲良町議会の百条委員会での調査を「失礼ながら、田舎の町規模の議会としては、よく綿密に調査されたという感想を持っている」と昨年と同様の評価を受けました。「疑惑を刑事事件として裁く」には、談合事件としては最低制限価格の教示の有無 だが、だれに、いつ、どこで教えたか

甲良民報

2013年7月14日 557号
発行責任: 日本共産党甲良町議員団
連絡: 甲良町在土463(西澤)
Tel. Fax38-4949

みなさんのお声・願いをお待ちしています くらし・医療・税金・教育などの相談は 西澤伸明 38-4949 丸山光雄 38-3123
日本共産党甲良町支部の見解を紹介します。メール siga-koura463@jcp-nobuaki.com ホームページもご覧ください【「西澤伸明」で検索】

公約違反 TPP参加ゆるすな

6月議会最終日(14日)、西澤、丸山議員によりTPP参加に反対する意見書が提出されましたが、他の議員が反対したため、否決されました。(意見書の小見出しは編集者)

TPPに参加しないことを求める意見書(案)

安倍内閣は3月15日、TPP交渉参加の正式表明以来、4月20日、TPP交渉参加11カ国の同意を取り付け交渉参加への道をひた走っています。24日には米国政府が我が国のTPP交渉参加に関する議会通知を行いました。これにより、我が国は90日間の審議期間を経て、7月下旬にTPP交渉参加が承認され、9月に行われるTPP拡大交渉会合が日本にとっての初会合となる見込みです。

全ての関税撤廃と国内制度を攻撃

TPPは国民生活および日本社会全般に及ぼす多くの問題点が指摘されています。まず、「全ての関税撤廃」を原則とする協定であり、農業分野だけではなく、食の安心・安全、医療、保険、政府・自治体の発注など、24の作業部会で交渉が進められています。また、国内における食品添加物や農薬の残留基準、遺伝子組み換え食品の表示、牛肉のBSE輸入規制など「貿易の障害になる」として撤廃・緩和をアメリカは強く迫っています。さらに、営利会社の医療への参入、混合診療の解禁、薬価決定にアメリカ製薬企業の関与などが迫られ、国民皆保険制度に穴をあけてしま

お金がなければ・・・

今村医師(坂本民主診療所)の話

アメリカの薬代は日本の5割ほど高いのです。「自由な貿易を妨げる」という理由だけで日本の薬価が高い方に合わせられる危険があります。TPPは農業分野が中心のように言われていますが、ちがいます。アメリカの保険会社が利益拡大のために虎視眈々とねらっているもので、例えば、IPS細胞による先端の治療もアメリカの保険会社に加入していれば私的保険が適用されるが、日本の公的保険では治療が受けられないなど、公的保険がどんどんせばめられる危険があり、お金がなければまともな医療が受けられない事態になることは容易に想像がつかます。

う恐れがあります。

国家主権を侵害

その上、投資家が政府に「損害を被った」と判断すれば国際機関に訴えて賠償を求めることができるISD条項の導入をアメリカは強く迫っています。

今でさえも39%の食料自給率がTPPに参加すれば、さらに落ち込むことは明らかです。滋賀県が行ったコメと麦の生産減少率を我が町に当てはめると耕種生産部門合計で約5億9千万円から3千万円に激減します。農林産業および関連産業・地域経済に多大な打撃となることは明らかです。

アメリカの要求を丸のみ

安倍首相が「守るべきものは守る」「交渉力を駆使する」と繰り返し言明してきましたが、アメリカとの事前協議の合意では、コメ、乳製品、砂糖など重要農産物の「聖域」確保の保障は何もないことが明らかになり、日本の交渉参加の条件とされた「入場料」をほとんど丸のみしたのです。その上、弱肉強食のアメリカ型ルールを押し付けられる危険度の高い「二国間協議」も受け入れたのです。

先行11カ国は年内妥結を目指すとしており、後れて参加表明したカナダとメキシコは「後発国は再交渉できず」「交渉打ち切る権利は先発国のみ」との不利な条件を承諾した上で参加が認められていたことが判明し、日本は、ただ出来上った合意を丸のみするだけとなる危険が高いものです。

「農業地域こわす」と甲良町長も反対

このように、TPPが国のかたちを一変させる極端な交渉であるという懸念とともに、交渉内容が秘密とされることにも国民の強い不安が募っています。

滋賀県下では、わが国の食と暮らし・いのちを守るため、農業団体、町村会、医師団体・消費者団体等が結束し「TPPから県民のいのちと暮らし/医療と食を守る県民会議」を結成し、わが国の国益が守れず、国民の合意と理解のないTPPには参加しないことを強く要求しています。

よって、TPPの参加を行わないことを強く求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

(1面からのつづき)

この情報が特定されなければならぬ制度上の「大きなカベ」を乗り越える必要があることを繰り返し強調されたことを受け止めました。

私たちは次席検事の説明の中でふれられた「新たな証拠」への不審をつのらせざるをえませんでした。それは「新たな疑惑」として私たちの胸にたれ込めた暗雲となり、晴れないものでした。暗雲となった「新たな証拠」

なるものは「プライバシーの保護」の名のもとに事実かどうかの検証すらできないベールに包まれています。今のところ。

私たちは合点がいかない「新たな証拠」の存在を知り、「関係する4人は不起訴との処分を告知され、逆に黒の疑惑を深めているのが実態です。次席検事も評価したように、百条調査委員会が認定した具体的な6点の疑惑(別記)は何ら晴れていないのです。

4人の刑事責任は私たちの側

からは訴えられませんが、町民のくらしと税金の公正な執行をつかさどる町政の長と住民の代表機関たる議会の正副議長らが、町政と税金を私物化しようと関わった官製談合疑惑に対する政治的・道義的責任がいささかもまぬがれ得ないことは明らかです。私たちは「だれもが公平に安心して暮らせる」ためには町政での不正は決して許してはならない、との立場で引き続きみなさんと力をあわせてがんばる決意です。